

ChatGPT に聞いてみた

中国は監視カメラによる監視社会、中国の速度違反取締は

ChatGPT:

中国における**速度違反の取り締まり**は、世界でも屈指の**高度な監視システム**に支えられたものです。

これは「監視社会」としての側面と、「交通違反ゼロ化」への強い国家方針が重なった結果であり、****AI・顔認証・ナンバープレート認識技術(LPR)****が組み込まれています。

CN 中国の速度違反取り締まりの特徴

✓ 1. 全国規模で AI 監視カメラによるリアルタイム取締り

- 高速道路・市街地・農村問わず、**監視カメラ(監控)網が極めて密**。
- ****ナンバープレート認識(LPR)****により、違反車両の**速度・進入・通過時間・車種**などを正確に自動測定。
- AI が「**時速〇km 以上**」「**平均速度超過**」などを検出 → 自動で罰則通知。

✓ 2. 区間平均速度 (Section Control) も一般的

- 「**入口・出口の通過時間で平均速度を算出**」する方式。
- 渋滞時に一時的に**スピードを出すドライバー**の取り締まりにも有効。
- 高速道路や国道で多用。

✓ 3. 違反処理は完全オンライン化

- 違反検出→通知→罰金支払いまで**全てスマホアプリや WeChat ミニプログラム**で完結。
- 処理しなければ、**運転免許の更新や車検、ETC 利用が停止**されることも。

✓ 4. ペナルティが厳格かつ一元管理

- 速度超過ごとに「**違反点数**」+「**罰金**」が加算され、**年間 12 点で免許停止**。
- 例(2024 年時点の一般的基準):

速度超過	罰金	点数
+10km/h 未満 約 100 元(約 2,000 円)		0~1 点
+10~20km/h 約 200 元		3 点
+20~50km/h 約 500 元		6 点
+50km/h 以上 約 1,000 元以上+免許停止 12 点		

5. 顔認証・社会信用スコアとの連携(※一部地域)

- ・ 違反の累積が多いドライバーは「信用格付け(芝麻信用など)」に影響。
- ・ 重大違反者は顔画像+車両ナンバーがデジタル掲示板で晒されることも。
- ・ 特定地域では「歩行者の信号無視」も顔認識+通知が行われる。

監視社会としての交通管理の意味

ポジティブ面

ネガティブ面

交通事故・違反が大幅に減少 プライバシーの侵害リスク
取締の恣意性が排除されやすい 国家による行動監視の強化
効率的な自動交通制御が可能 誤認による処罰や異議申し立ての困難

他国との比較(日本・ドイツ)

項目	中国	ドイツ	日本
オービス密度	非常に高い	高い(科学的運用)	中~低
AI・LPR 活用	全面導入済	導入段階	一部導入中
顔認証・信用連携	一部実施	なし	なし
平均速度取締	広く導入	一部導入	ごく一部のみ

日本が中国式から学べる点(ただし注意が必要)

導入可能

留意点

平均速度による自動取締 プライバシーとのバランスが必要
AI オービス+リアルタイム違反通知 法制度の整備が必要

導入可能

アプリによる違反処理の自動化

留意点

高齢者・IT 弱者対応



まとめ:

中国の速度違反取り締まりは「監視網 × AI × 自動化 × 厳罰主義」が融合したものであり、

日本や他国よりも圧倒的に技術的・制度的に進んでいるが、同時に自由・人権との緊張関係も抱えています。